

## 【共用基準範囲の採用についてのお知らせ】

2019年8月31日（土）より、検体（血液）検査のうち、国内標準化が達成された下記項目を対象に、日本全国の医療機関で共通して使用することが可能な「共用基準範囲」を採用いたします。

### 〔共用基準範囲とは？〕

JCCLS（日本臨床検査標準協議会）が健常者の大規模調査データをもとに、下記項目について日本国内で共通に利用可能な基準範囲として設定したもので、日本医師会をはじめとする関連団体の賛同が得られた基準範囲です。

### 〔導入のメリットは？〕

今回採用する「共用基準範囲」は、全国の大学病院や国立病院機構を中心に採用施設が増えています。採用施設ではどこで検査しても同じ評価基準で判定されることとなります。

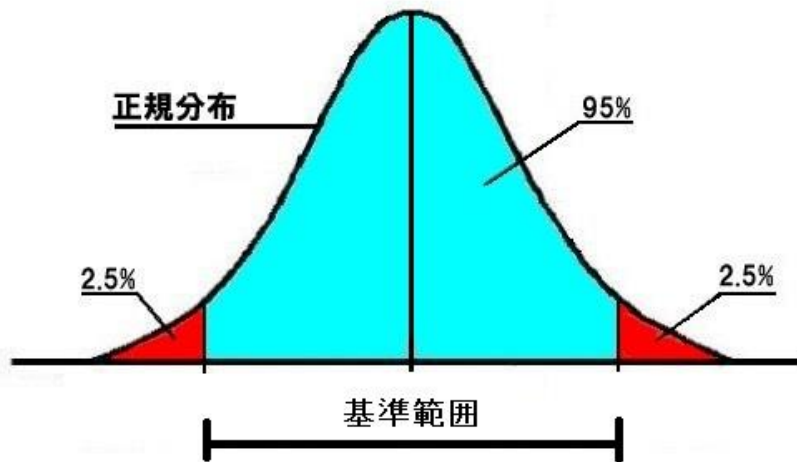
### 〔対象項目および基準範囲〕

検査項目	単位	性別	共用基準範囲		検査項目	単位	性別	共用基準範囲	
			下限	上限				下限	上限
総蛋白	g/dL		6.6	8.1	ALT	U/L	M	10	42
アルブミン	g/dL		4.1	5.1			F	7	23
A/G比			1.32	2.23	LD	U/L		124	222
尿素窒素	mg/gL		8	20	ALP	U/L		106	322
クレアチニン	mg/gL	M	0.65	1.07	GGT	U/L	M	13	64
		F	0.46	0.79			F	9	32
尿酸	mg/gL	M	3.7	7.8	コリンエステラーゼ <sup>°</sup>	U/L	M	240	486
		F	2.6	5.5			F	201	421
ナトリウム	mmol/L		138	145	アミラーゼ <sup>°</sup>	U/L		44	132
カリウム	mmol/L		3.6	4.8	クレアチンキナーゼ <sup>°</sup>	U/L	M	59	248
クロール	mmol/L		101	108			F	41	153
カルシウム	mg/gL		8.8	10.1	CRP	mg/gL		0.00	0.14
無機リン	mg/gL		2.7	4.6	血清鉄	μ g/dL	M	40	188
血糖	mg/gL		73	109			F		
中性脂肪	mg/gL	M	40	234	IgG	mg/gL		861	1747
		F	30	117	IgA	mg/gL		93	393
総コレステロール	mg/gL		142	248	IgM	mg/gL	M	33	183
HDLコレステロール	mg/gL	M	38	90			F	50	269
		F	48	103	C3	mg/gL		73	138
LDLコレステロール	mg/gL		65	163	C4	mg/gL		11	31
総ビリルビン	mg/gL		0.4	1.5	HbA1c	% (NGSP)		4.9	6.0
AST	U/L		13	30					

## 【基準値と正常値】

健康診断を受けたり、病院を受診したりして血液検査を受けると、検査結果を受け取ることが多いと思います。検査結果には色々な項目があり、検査値が記されていますが、検査値の隣に「基準値」という項目があり、〇〇～〇〇と表示されていると思います。そして、この基準値をもとに検査結果の後ろ（あるいは前）に H（高い）とか L（低い）というマークがついているかもしれません。では、この「基準値」とは何でしょうか？多くの方は「正常値のことじゃないの？」と言われると思います。実際昔は検査結果にも「正常値」と記載されていた時代もあります。しかし、現在では「正常値」という記載は必ずしも正しくないとの判断で、ほとんど使われなくなりました。

そもそも「基準値」とはどうやって算出するのでしょうか？実は、多くの検査項目については「基準値」は統計学的に求められています。簡単に言いますと、健康人を 100 人集めて検査して、その検査値を統計学的に処理し、95%が属する範囲で決められます。



逆に考えると、健康な方のうち、5%の方は「基準値」から外れるということになります。しかし、「基準値」から外れたからといって、それが正常ではないとはいえません。このような理由から「正常値」という用語は使われなくなりました。

とはいえ、「基準値」を少しだけ外れている数値と、大きく外れている数値では持つ意味合いが違います。医学の世界では、どのくらい外れると病的意義があるかという判断の基準として「臨床判断値」というものが存在します。例えば、空腹時血糖の基準値は 70-109mg/dl ですが、「126mg/dl 以上であれば糖尿病が考えられる」などです。もちろん 110～125mg/dl の方も糖負荷試験などの精査を行い、糖尿病と診断されることもあります。

いずれにしても、検査結果については複合的に判断する必要があり、自己判断で「このくらいなら大丈夫」と思わずに担当の先生に必ず相談するようにしましょう。